

平成30年度水道事業会計予算の概要

資料1

(1) 業務量

区 分 項 目	平成30年度 当初予算	平成29年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
年間総給水量(百万m ³)	171.3	171.9	▲ 0.6	▲ 0.3
給水戸(箇所)数(千戸)	806.5	803.0	3.5	0.4

※伸び率はm³、戸単位で計算

(2) 財政規模(税込額)

(単位:億円)

区 分 項 目	平成30年度 当初予算	平成29年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
収 益 的 支 出	353.5	346.4	7.1	2.0
資 本 的 支 出	133.8	150.4	▲ 16.6	▲ 11.1
合 計	487.3	496.8	▲ 9.5	▲ 1.9

※伸び率は千円単位で計算。

(3) 経営収支(税抜額)

(単位:億円)

区 分 項 目	平成30年度 当初予算	平成29年度 当初予算	対前年度予算		主な増減理由	
			差 引	伸び率(%)		
収 益	給 水 収 益	297.1	297.3	▲ 0.2	▲ 0.0	水道料金収入の減
	分 担 金	5.4	5.2	0.2	2.8	
	基金からの繰入金	3	-	3	-	
	受 取 利 息	1.4	1.4	0.0	▲ 0.1	
	一 般 会 計 繰 入 金 (販 水)	0.2	0.3	▲ 0.1	▲ 38.2	
	長 期 前 受 金 戻 入	31.6	32.0	▲ 0.4	▲ 1.5	
	そ の 他 収 益	25.0	18.5	6.5	35.2	緊急時連絡管整備に伴う 受託工事収益の増[注]
	特 別 利 益	1.4	4.4	▲ 3.0	▲ 68.0	土地の売却等の減
合 計 (A)	365.1	359.1	6.0	1.7		
費 用	人 件 費	60.5	60.8	▲ 0.3	▲ 0.6	職員数の減
	受 水 費	109.4	111.0	▲ 1.6	▲ 1.4	阪神水道企業団に対する受 水費の減
	物 件 費	49.8	47.8	2.0	4.1	委託料の増
	減 価 償 却 費 等	102.3	99.8	2.5	2.5	
	支 払 利 息 等	5.8	6.2	▲ 0.4	▲ 7.1	企業債利息の減
	繰 出 金	0.2	0.3	▲ 0.1	▲ 38.2	
	そ の 他 費 用	5.5	1.1	4.4	395.7	受託工事費の増
合 計 (B)	333.5	327.0	6.5	2.0		
当年度損益(A)-(B)=(C)	31.6	32.1	▲ 0.5	▲ 1.5		
前年度末累積損益(D)	74.5	42.4	32.1	75.6		
当年度末累積損益(C)+(D)	106.1	74.5	31.6	42.4		

※伸び率は千円単位で計算。

[注] 「その他収益」には、民間社会福祉施設等の減免に対する他会計負担金を含む。

(4) 資本的収支 (税込額)

(単位：億円)



項 目	区 分	平成30年度 当初予算	平成29年度 当初予算	対前年度予算	
				差 引	伸び率 (%)
収 入	企 業 債	-	-	-	-
	固 定 資 産 売 却 代 金	2.1	0.7	1.4	-
	工 事 負 担 金	5.2	4.6	0.6	14.6
	国 庫 補 助 金	0.8	1.5	▲ 0.7	▲ 48.4
	施 設 増 強 負 担 金	0.1	0.1	0.0	0.0
	基金収入 (基金の運用益)	1.8	2.0	▲ 0.2	▲ 6.2
	基金からの繰入金	11.1	14.2	▲ 3.1	▲ 21.7
	一般会計繰入金	2.2	2.1	0.1	3.6
	雑 収 入	0.1	3.8	▲ 3.7	▲ 99.6
	そ の 他	0.2	0.3	▲ 0.1	▲ 35.6
合 計 (A)		23.6	29.3	▲ 5.7	▲ 19.3
支 出	建 設 改 良 費	110.6	113.8	▲ 3.2	▲ 2.8
	基幹施設整備工事	28.3	37.3	▲ 9.0	▲ 24.1
	配水管整備増強工事	55.3	51.2	4.1	7.9
	開発団地施設工事等	27.0	25.3	1.7	6.7
	企 業 債 償 還 金	18.0	19.4	▲ 1.4	▲ 7.1
	基金への積立	1.9	2.0	▲ 0.1	▲ 6.1
	繰 出 金	2.2	5.9	▲ 3.7	▲ 62.4
	そ の 他	1.1	9.3	▲ 8.2	▲ 88.3
合 計 (B)		133.8	150.4	▲ 16.6	▲ 11.1
収支差引(A)-(B)		▲ 110.2	▲ 121.1	10.9	9.1

※伸び率は千円単位で計算。

(注) 資本的収入額が資本的支出額に不足する額110.2億円は、損益勘定留保資金等で補てんする。

事項	予算額	収益的支出	資本的支出	説明
1. 水道システムの最適化				
(1) 水源	12,165	11,898 11,883	267 210	<ul style="list-style-type: none"> ・上ヶ原浄水場再整備と受水量の最適化 上ヶ原浄水場再整備検討業務 阪神水道企業団・県営水道からの受水 ・自己水源の有効活用 布引溪流のブランド活用 災害時の水道水の利用 (予備水源含む) 奥平野浄水場 タンク車用給水設備改修 ・水源保全活動の強化 水源地上におけるかび臭発生の抑制方法 の実証実験 等 (P6)
		3	5	
		12	52	
(2) 貯水池～配水池	2,114	391 386 5	1,723 1,723 -	
(3) 配水管	5,314	48	5,266	
(4) 給水装置および受水槽	70	70 7 14 49	- - - -	<ul style="list-style-type: none"> ・受水槽の適正な管理の啓発 ・管路情報システムの運用 ・水道修繕受付センターの運営、 悪徳事業者対策 等 (P6)
				 <p>水道修繕受付センターPRシール</p>
(5) 水質管理	139	61	78	<ul style="list-style-type: none"> ・水質検査機器の整備、 水質監視モニターの更新
2. 災害への備え				
(1) 災害に強い水道施設の整備	244	5 5 -	239 2 223 14	<ul style="list-style-type: none"> ・津波対策 水管橋の点検・補修 ・配水池等の耐震化の推進 ・安全性調査と対策工事の実施 土砂災害対策 等
				
				水管橋
(2) バックアップ体制の強化	1,155	387 - 1 386	768 768 - -	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地送水施設連絡管整備、 北神地区送水施設整備 等 ・事業継続マネジメント (BCM) の構築 ・明石市緊急時連絡管整備
(3) 市民とともに築く災害対策	101	5	96	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時臨時給水栓「ふっQすいせん」の整備 (P5) 貯水機能のある災害時給水拠点の再整備

(単位：百万円)

事 項	予算額	収益的支出	資本的支出	説 明
3. 経営の持続				
(1) 経営基盤の強化	12,866	12,857 1,044	9 9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民連携のさらなる推進 お客さま電話受付センター運用業務 水道料金徴収業務、 メーター取替業務等の委託 ・ 受水費の負担軽減 (阪神水道企業団・県営水道)
(2) 人材の確保・育成と 社会貢献	7	7 4 2 1	— — — —	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成と技術の継承 ・ 水国際貢献事業の推進、海外との人的ネットワークの構築 ・ 震災経験の情報発信と被災地支援への取り組み
(3) 水需要減少社会における 料金体系の検討	1	1	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営に関する情報発信とコミュニケーションの推進
4. 広報とコミュニケーションの 充実・強化	77	77 15 2 58 2	— — — — —	<ul style="list-style-type: none"> ・ こうべアクアサポーター制度の推進 ・ 経営情報冊子を活用した情報発信 ・ 「水育」の推進、水の科学博物館の活用 ・ A Q U A ルネッサンス神戸 「おふる部」の取り組み
				 <p>JICA研修</p>
				 <p>こうべアクアサポーターのワークショップ実施風景</p>
				 <p>「水育」の推進(小学生による配水池見学)</p>

1. 経年配水管の更新・耐震化 4,415,418 千円 (税込)

経年劣化した配水管は、赤水や漏水の原因となることに加え耐震性も劣る。神戸市では、高度経済成長期に布設した大量の配水管が今後更新時期を迎え、早期に更新および耐震化を進めていく必要があるため、平成 27 年度より 5 年間で配水管の更新ペースを段階的に増加させていき、平成 31 年度を目途に 40 k m/年のペースアップに取り組んでいる。平成 30 年度においては 36.7 k m の更新を予定している。

なお、更新にあたっては、水需要の減少に伴う配水管のダウンサイジングを図る等、配水管網の再構築を進めているとともに、新材料（ポリエチレン管）を採用するなど、更新費用の削減に取り組んでいる。

2. 災害時臨時給水栓「ふっQすいせん」の整備 30,168 千円 (税込)

神戸市ではこれまで、災害・事故直後の飲料水を確保するため、半径 2 km ごとに、「貯水機能のある災害時給水拠点」の整備を進めてきた。

災害時給水拠点を活用した市民との給水訓練に取り組む中で、市民からの「自分たちの地域にも給水拠点を整備してほしい」という要望を踏まえ、より身近な場所で水を入手することが可能となるよう、災害時に避難所として優先的に復旧する小学校を中心に、「災害時臨時給水栓「ふっQすいせん」の整備を進めている。

整備により、災害時でも早期に身近な給水栓で水が利用でき、水運搬の負担を軽減していくとともに、整備にあわせて、これまで応急給水を体験したことがない市民にも訓練に参加できる機会を積極的に設けている。訓練を通じて阪神・淡路大震災で得た教訓とともに災害時給水拠点の役割等を、市民に知ってもらい、災害時のリスクコミュニケーションの強化を図っていく。



ふっQすいせん



小学校での応急給水訓練

3. 悪徳事業者への対策 7,907 千円 (税込)

水回り修繕に関する契約トラブルは、依然として増加傾向にあるため、消費生活センターや建設局下水道部とタイアップしながら、これまで以上に悪質な業者への対策に取り組んでいる。引き続き、修繕受付センター等修繕窓口のPRや消費生活センターに寄せられた被害手口の紹介による注意喚起を、各種のイベントや地域活動組織を通じて実施していく。

また、指定業者に対して、定期研修で市民からの苦情や説明のポイントなどに触れたうえで、契約トラブルを防ぐため事前の説明を徹底するよう指導している。あわせて修繕等の際には指定業者に配布している携帯証を身分証として活用するよう啓発している。

平成 30 年度は「貼って剥がせる修繕受付センターの案内シール」を 7・8 月の検針にあわせて全戸配布するなど、PR を強化する。



指定業者に配布している携帯証 (例)

4. 水源地におけるかび臭発生抑制方法の実証実験 3,046 千円 (税込)

水道水源の貯水池では植物プランクトン (アナベナ) の増殖によるかび臭の発生が問題となっており、今後、地球温暖化によりますます被害の拡大が懸念されている。

神戸市では、かび臭対策として、貯水池において取水する深さの変更や浄水場において活性炭を用いてかび臭を除去するなどの対策を講じている。根本的なかび臭の予防策として、かび臭の原因であるアナベナの増殖を抑制するため、環境にもやさしい微生物の力を活用する方法を研究している。

神戸市は、研究を進める上で必要となる無菌状態のアナベナの作成に世界で初めて成功し、さらには貯水池の水の中にアナベナの増殖を抑制する微生物の存在を発見した。また、その微生物は湖沼に自生する水草 (ササバモ) 表面に高密度で生息し、水草によるアナベナの抑制が可能となることを確認した。

実際の貯水池においても、水草に生息する微生物による効果が有効に機能するのか実証実験により確認し、実用化に向けた知見を集積する。今年度は、烏原貯水池に小規模な設備を設置し、実証実験を行う。

